



仏国禅師座像 (円応寺蔵)



千葉氏 禅宗 東アジア

— 中世房総をめぐる新たな視座 —

2021年12月11日 土

参加無料

開催時間 13:00 ~ 16:15
開催場所 千葉大学西千葉キャンパス
けやき会館大ホール

募集人数：100名

申込期間

2021年11月1日(月) から
11月26日(金) まで

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によつては、後日オンデマンド配信となります。

❁ 講演1 ❁

中世東アジア世界の中の房総・千葉氏

講師：山田 賢 (千葉大学人文科学研究院・教授)

❁ 講演2 ❁

千葉一族・白井氏と五山文学

講師：川本 慎自 (東京大学史料編纂所・准教授)



◀ 参加申込はこちらから
千葉市立郷土博物館
043-222-8231

※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

千葉氏 禅宗 東アジア

—中世房総をめぐる新たな視座—



千葉氏が活躍したのは、日本史の時代区分でいえば「中世」という時代です。これまでも「武家」としての千葉氏のさまざまな歴史上の事績について紹介されてきました。しかし、この「中世」という時代において、アジアという空間の中で房総半島や千葉氏を位置付け、把握する試みは十分ではなかったと言えましょう。さらに、千葉氏の別の側面、つまり一族の「知性」について、東アジアとの関わりという面から考えていくことも必要でしょう。

本講座では、中世・房総・千葉氏という時代・空間・人について「東アジア」という広い視座から捉え、また中国文化の受容という視点から「禅宗」と千葉一族との関わりについて具体的に明らかにしていきます。

◀白磁四耳壺（長岡堂庭遺跡出土，四街道市教育委員会）

講演 1

中世東アジア世界の中の房総・千葉氏

講師：山田 賢（千葉大学人文科学研究院・教授）

中世の千葉氏は、水上交通を媒介として房総の広い地域に影響力を持っていたばかりか、列島各地域をつなぐさらに大きなネットワークを保持していたと考えられています。

こうした千葉氏の発展、それを可能にした列島の状況の背景には、東アジア世界全域に及ぶ歴史的変動があったのではないかと考えられます。さまざまな研究状況を鳥瞰しながら、中世東アジア世界の中の日本列島、日本列島の中の房総について考えてみたいと思います。

講演 2

千葉一族・白井氏と五山文学

講師：川本 慎自（東京大学史料編纂所・准教授）

戦国時代の鎌倉の禅宗寺院では、水墨面に漢詩を記した「詩面軸」という作品が盛んに作られます。その漢詩を作った禅僧たちの師弟関係をさかのぼると、道庵曾頭というひとりの僧にたどりつきます。実はこの道庵は、千葉一族・白井氏の出身でした。

道庵はどんな人物だったのか、そしてどうしてその一門から学僧を輩出することになったのか、白井氏や中世の印旛沼周辺の文化的環境とあわせて考えてみたいと思います。

【申込方法】

電子申請もしくは往復ハガキでお申込みください。お申込みの際にいただいた個人情報は、本講座以外に使用いたしません。

◇電子申請での申し込み

千葉市立郷土博物館ホームページ内の当講座のページにあるリンクから電子申請によりご応募ください。

HP はこちら：<https://www.city.chiba.jp/kyodo/>

◇往復ハガキでの申し込み

往信用はがきに「講座名」「申込者氏名（フリガナ）」「郵便番号」「住所」「年齢」「電話番号」、返信用はがきに「返信用の宛先」を記入の上、以下の問い合わせ先の住所へお送りください。

◇問い合わせ先

千葉市立郷土博物館

住所：〒260-0856 千葉市中央区亥鼻 1-6-1

電話：043-222-8231

【申込期間】

2021年11月1日（月）

～2021年11月26日（金）

※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

※往復ハガキでの申込は11月26日（金）

郷土博物館必着。

【アクセス】



JR 総武線「西千葉」駅下車、徒歩7分
JR 総武線快速利用の場合は「稲毛」駅乗り換え
京成千葉線「みどり台」駅下車、徒歩7分